



Title	協会のひろば : 職場だより
Author(s)	長谷, 喜市
Citation	makoto. 1979, 27, p. 9-9
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86125
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



職場だより

私達の職場「第三事業部」は、皆さんご存じのとおり、職、従業員数百三十数名で、主たる仕事は電車、駅舎の清掃業務と、バス・タクシーの定期的な消毒作業であります。

この仕事に従事してから特に気になることは、公害問題のニュースのことです。
いわく、ゴミ・騒音・震動・排気ガス・悪臭・排水・大気汚染など枚挙にいとまなく、かつ、時としてこれらに関連した贈賄汚職事件が発生し、裁判沙汰へとお定りのコースでたどっていることです。

昨年、ある新聞紙上に「東海道を清掃行脚の旅」の見出しで、「ウィッピー」のメンバー四人が、空きカンを回収して、京都からリヤカーを引いて東京まで清掃行脚（PRを兼ね）の旅に立つ。」と出ていました。
私達も、ご他聞にもれず、空きカン・ビン類などの嵩高品に辟易しております。

その上に、特定の駅・停留場

においては、心ない人の水もしたたる家庭のゴミ放棄に泣かされていきます。

焼却はできず、収集業者からは、「家庭用のゴミではないから」と嫌われ、三拝九拝やつと引取っていただくこともしばしばであります。

夏休みは人出も多く、ガムの投棄と煙草の吸がらにも泣かされます。少し位は清掃担当者の身にもなつて考える、或は温い思いやりがあつてもなどと思うこともありすが、私達はひたすら真心をこめて奉仕することを第一のモットーとしております。

時折、ホームや電車のなかで、幼児「お母さん、この紙切れ・カワどうしよう?。」
母親「この袋に入れて、後でゴミ箱にほかそうね。」

このような、微笑しい会話や光景をまのあたりにしたとき、懐のよさに感心するとともにうれしさがこみあげてきます。

雨が少く暑さが続くと地域に

よつては、断水、時間給水等がつづき、私達の職場も大変で、悩みの種が又一つ増えてきます。その中でも、特定の箇所とはいいながらも、トイレの使用についての悪さなど唯々啞然とするものがあります。

良識ある国民として、清掃に当る者、当たらない者の別なく、自らの行動を律していただきたいものと念願しております。
年輩者を多く抱えた私達の職場では、職員一同鳩首談合、そして「ケガのない明るい職場づくり」をスローガンとして「安全作業」と「健康管理」を主軸に、職場内では「話し合う」良否にかかわらず良き相談相手として、また「聴く」耳を持つ、相手にこちらの意志を「伝える」こういったプロセスを経て相互に「わかりあう」ことにとめております。

具体的には、毎日始業前の職員一同のミーティングから始まります。「意志疎通の窓」ジョーハリーの心の窓とも言ふ隠された領域を如何にして拡張していくか?。テクニクとして、聴き方・話し方・話し合いの要点は何か・相手に語らせる聴き方は……等をミーティングの場を通じ少しづつでも体得しても

らい、そしてこれらから得る多くの情報から「本音は何か」の問題を把握し、対策処理につとめております。
また、全職、従業員に対しては、毎月一ロメモとして給料袋に印刷してPRにつとめております。

テーマは、行事を中心として昨年六月から始めております。例えば「作業前には、手元、足元に注意してケガのない、明るい職場をつくりましょう」「皆さん、食中毒のシーズンです、飲食物に充分注意しましょう」「帽子を正しく着用し、作業場

簡易専用水道の管理について、の定期検査機関として、同水道の検査を担当する第一事業部職員に対し、昭和五十四年六月一日堺泉北海員会館において、理事長臨席のもと、児玉顧問を講師として次のとおり自主研修会を実施した。

簡易専用水道検査職員研修

- 一、開会
- 一、理事長訓辞
- 一、水道法等関係法令及び通達等について
- 一、現地において検査実習
- 一、閉会



研修風景

のせいり、せいとんにつとめましょう」等各月ごとに呼びかけます。そして「あなたが主役です」と、作業員の一人一人が自分の立場で、自分の職務の中で責任をもって作業する。この日々の集積が、明るい職場づくりの礎石となるものと信じております。

私達の好きな句(今の心境)
この道より
我を生かす
道なし
この道をゆく

第三事業部
長谷 喜市